

(様式 2)

推進校別事業実績報告書

<取組と成果のポイント>

「よく考え、正しく判断し、自律する子」の育成を目指し、「道徳の時間の充実」「家庭・地域との連携」「豊かな道徳的環境」という3つの柱を中心に取り組んだ。

「道徳の時間の充実」としては、次のことを中心に取り組んだ。

○同じ道徳的価値に関するものは、道徳の時間を中核とし、各教科や特別活動をつなげた道徳学習を実施する。

○授業の基本形の提示、資料選定と効果的な利用、発問の工夫、書く時間の確保、話し合い活動の重視による授業改善を行う。

○「心のノート」を活用し、児童にとって道徳の学習が分かりやすく楽しいものにするるとともに、家庭との連携に役立てる。

「家庭・地域との連携」としては、次のことを中心に取り組んだ。

○家庭や地域と連携した一体的な道徳教育を推進するために、授業公開、保護者向けの研究会、各種便りでの発信、「道徳アンケート」調査等を実施する。

「豊かな道徳的環境」としては、次のことを中心に取り組んだ。

○道徳コーナーを設置したり、あいさつ運動をしたりして、児童の道徳性を育てる環境づくりをする。

取組の成果としては、以下のようなことが挙げられる。

- ・つながりを意識した道徳授業を実施することにより、ねらいがより効果的に達成された。
- ・道徳の授業を工夫することで児童が主体的に学習するようになった。
- ・「心のノート」をあらゆる場面で活用することにより、児童にとって道徳が身近で分かりやすいものになった。
- ・道徳教育の重要性に対する教師の意識改善が図られた。

1 推進校の概要等

推進地域名	福井県 ^{おぼまし} 小浜市			
学校名	所在地	電話番号	児童生徒数	備考
^{おぼまし} りついまとみしょうがっこう 小浜市立今富小学校	福井県小浜市和久里 29-15-1	0770-56-0278	318名	

2 研究課題

- ① 自立心や自律性、生命を尊重する心をはぐくむ道徳教育
- ② 善悪の判断、きまりの尊重など規範意識をはぐくむ道徳教育
- ⑦ 人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育
- ⑨ 「心のノート」の効果的な活用
- ⑩ 家庭や地域との連携による一体的な推進の在り方

3 研究主題とその設定理由

<研究主題>

子どもたちと創りあげる授業の創造

—よく考え、正しく判断し、自律する子を目指して—

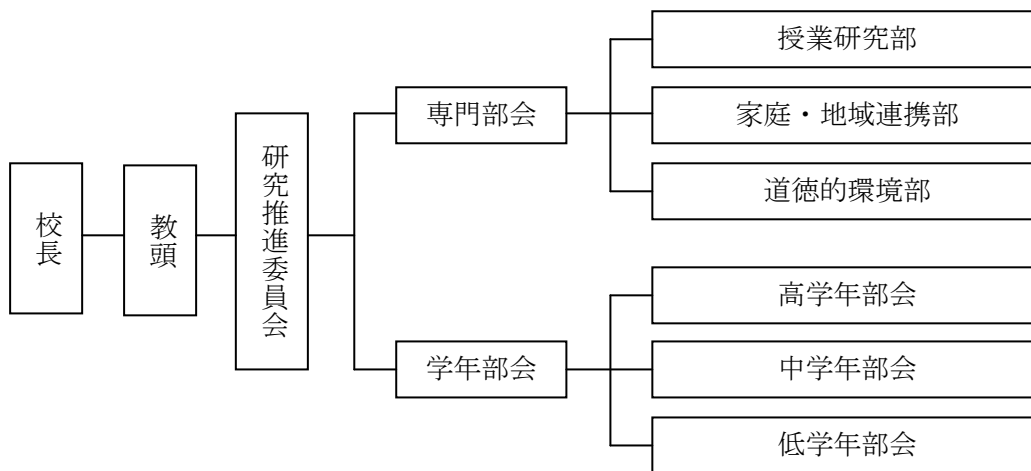
<主題設定の理由>

本校の児童は明るく素直で、指示されたことには真面目に取り組める。しかし、自らよく考え、ものごとに積極的に関わろうとする姿勢はあまりみられない。自分の行為が善いか悪いかの判断がつきにくかったり、悪いと分かっている友達が行うと自分も行ったりするなど、正しく判断する力が弱い傾向にある。友達に温かい言葉をかけたり優しい態度で接したりできる児童が多い反面、軽率に相手を傷つける言葉を使ってしまう児童、ルールが守れない児童、自己中心的な言動が目立つ児童も見受けられるなど、自分を律する力の弱さも見られる。

本校では「よく学び、のびのびした今富っ子」という学校教育目標を掲げ、自学共生の精神を持つ子を目指し、教育活動を進めている。そして、「子どもたちと創り上げる授業の創造—よく考え、正しく判断し、自律する子を目指して—」を研究主題として、自分でしっかりとした判断基準を持ち、その場の感情で行動しないでよく考え、他に流されないで自分を律することができる児童を育てたいと考えた。

4 研究の概要及び特色

①研究の体制



②研究課題ごとの取組の状況等

<自立心や自律性、生命を尊重する心をはぐくむ道德教育> 研究課題①

<善悪の判断、きまりの尊重など規範意識をはぐくむ道德教育> 研究課題②

- 全体計画を見直し、道德教育の重点目標を自立心や自律性、生命尊重、規範意識に関わるものにした。そして年間計画を立てる際は、それらに関わる内容項目（低・中学年は1－（1）、3－（1）、4－（1） 高学年は1－（2）、3－（1）、4－（1））を多くして重点化を図った。道德諸計画は、「道德と教科等とのかかわり」「道德と行事・体験学習との関連」「他教科・他領域・心のノートとの関連」の3種類を作成し、学期ごとに見直し、改善してきた。

- ・公開授業では重点化した内容項目の授業を行い，授業研究した。

<人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育> 研究課題⑦

- ・教材開発として，児童に感動を与えるような生き方の資料を探した。例えば6年生では，「主題名 命の重さ 資料名 ラッシュアワーの惨劇」で話題となった実話を取り上げて授業をし，命を懸けた二人の生き方について考えた。
- ・道徳の授業では資料の中や振り返りの場で自己の生き方について考えさせることが大事である。そのために書く時間を十分確保し，深く自分に向き合えるようにした。
- ・児童に自然体験・社会体験が不足しているので，意図的に豊かな体験活動を仕組んでいった。体験は振り返る場があってはじめて価値として自覚されるので「道徳の時間」へつなぐ体験活動を計画した。

～「内容項目2－(3)友情」に向けた取組例～

- ・平成22年6月25日に全校児童・保護者・教職員を対象に「人権紙芝居」を行った。人権擁護委員会の方による人権紙芝居「プレゼント」をみて，いじめや思いやりの心について考えた。6月30日には全校児童・保護者・教職員を対象に「心にひびく読み聞かせ」を行った。単なる読み聞かせではなく，ピアノのメロディーにのせて読み聞かせを聞いたので，より感情の高まりを感じられた。3曲目の「あのとすきになったよ」と人権紙芝居「プレゼント」に関連して，その後「友情」の道徳授業を実施した。「友情」に関連するユニットとしては，6月に全学級で全校道徳として「泣いた赤鬼」の授業も実施した。校長は全学級の授業を参観した後，授業の様子を受けて全校朝会で「友情」についての訓話を行った。これらを6月に関連付けて行うことで「友情」についての道徳授業がより深まった。



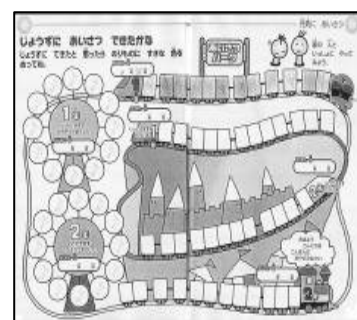
<「心のノート」の効果的な活用> 研究課題⑨

- ・「心のノート」を年間を通して計画的に活用できるように，「他教科・他領域・心のノートとの関連」計画表を作成した。昨年は主に道徳の授業で使用したが，今年度はあらゆる場面で使用するようにした。
- ・保護者に「心のノート」への記入をしてもらうことで，学校と家庭をつなぐものとして活用した。
- ・毎月1回，15日に「ハートデー」を設定し，全校一斉に「心のノート」を使用することにした。そして，授業や体験活動，日常生活などを道徳的な視点から見つめ直し，自分を振り返る機会とした。

～7月の「ハートデー」の取組例～

学年	時間	心のノート	内容
1年	学級活動	30 ページ	体も元気！心も元気！ 夏休みは、規則正しい生活を送って、楽しく過ごそう。
2年	学級活動	30 ページ	体も元気！心も元気！ 基本的な生活習慣の大切さを知り、夏休みのくらしに生かそう。
3年	学級活動	25 ページ	自分に正直になれば、心はとても軽くなる 「心のつな引き」をして、すなおな心で生活しよう。
4年	学級活動	36 ページ	礼ぎ一形を大切に心をかよわせ合う 夏休みは、礼儀正しく気持ちよく生活しよう。
5年	チャレンジタイム	87 ページ	どうしてゆがめてしまうのか 「心の窓をくもらせない」自分でいよう。
6年	チャレンジタイム	48 ページ 49 ページ	わたしにとって友達とは 友達とはどんな存在か。自分の心を見つめよう。

・「いつでも・どこでも・なんどでも」のコンセプトのもと、道徳の時間を中心に朝の会や学級活動など、あらゆる場で利用した。授業では資料への導入や自分の生活を振り返る時などに活用した。心に響く言葉や分かりやすいイラスト・写真がいっぱい載っており、児童にとって道徳の学習が分かりやすく楽しいものになった。1年生では右図の「心のノート P38・39 じょうずにあいさつできたかな」を毎日朝の会で色塗りしたことで意欲的に挨拶に取り組めた。



＜家庭や地域等との連携による一体的な推進の在り方＞ 研究課題⑩

- ・授業参観日に「道徳の時間」の授業公開をした。
- ・学校便りや学年便りで取組や学校の思いを知らせるとともに、協力を依頼した。
- ・保護者・児童・教職員対象に「道徳アンケート」を実施し、その結果を分析し、道徳教育を進める上での参考とした。また、アンケート結果を保護者にも返し、共に考えるようにした。
- ・道徳性は何よりも挨拶からだと思えるが、挨拶などの生活習慣は家庭・地域のしつけに負うところが大きい。そこでPTAと連携して挨拶運動に取り組んだ。保護者には「あいさつたすき」をかけて毎朝登校指導と挨拶運動に取り組んでもらった。教職員は毎月第1週に学校周辺で登校指導に、第2週に挨拶運動に取り組んだ。児童では代表委員会が毎朝挨拶運動に取り組んだ。



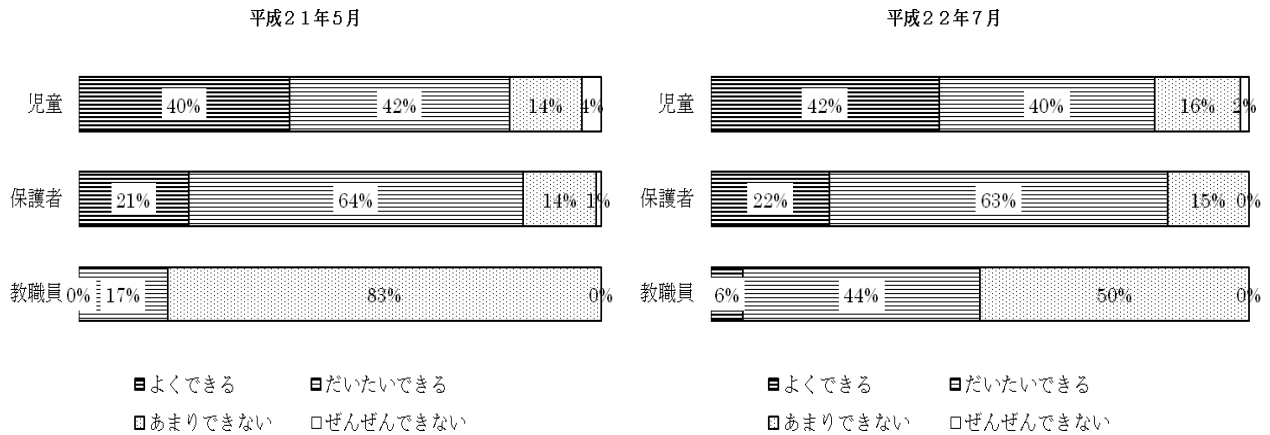
5 研究の評価

(研究の成果)

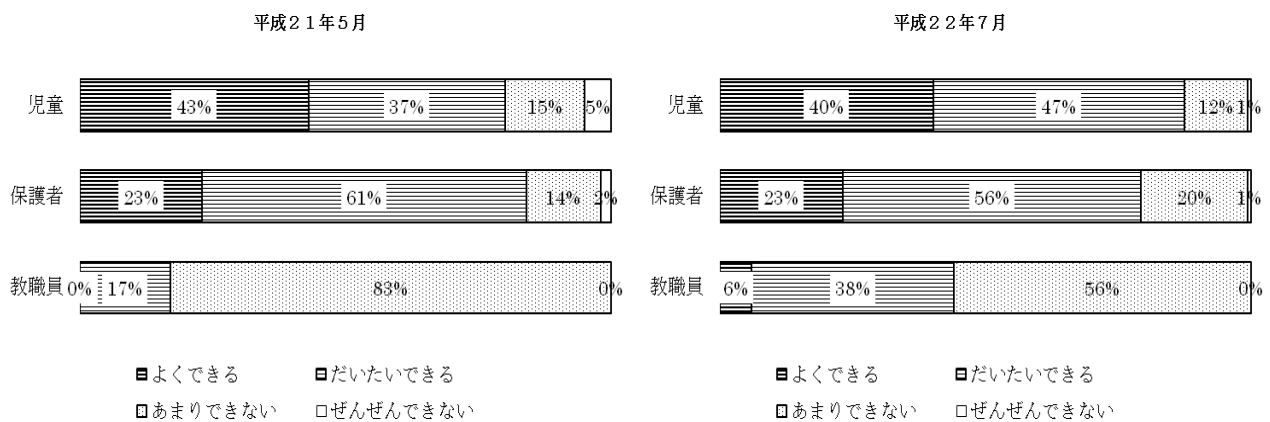
- ・道徳の授業公開をして指導・助言を受けたり、他校の道徳授業を参観したりすることで、教師の道徳の授業力が高まった。
- ・各種便りで学校の取組や思いを保護者に知ってもらうことで道徳的価値観を共有でき、同じ方向を向いて児童を育てることができた。
- ・道徳的環境作りとして、児童から「道徳標語」を募集して作品を掲示したり、「道徳コーナー」に道徳関係の掲示をしたりすることで、児童の道徳に対する意識を高められた。

- ・全校道徳を実施したことで、教職員に共通の話題ができ、道徳授業に対する意識が高まった。また、同じ資料を使うことで発達段階による反応の違いが分かり、今後の授業を構築する上での参考となった。
- ・本校作成の「道徳アンケート」結果を見ると、平成21年5月はどの項目も児童・保護者は似た傾向にあるが、教職員とは開きがある。これが、平成22年7月になると、下図のように家庭側と学校側との開きが縮まってきている。これは道徳的価値観が共有できつつあるためと思われる。

◆善悪の判断に関わる項目結果



◆規則尊重・公德心に関わる項目結果



(今後の課題)

- ・道徳的価値を自覚したり、自己の生き方についての考えを深めたりするための話し合い活動がより充実するためには、あらゆる場面でより言語力を付けていき、自分の思いを豊かに伝えることや友達の違いを正確に理解することができるようにする必要がある。
- ・魅力的な教材・資料の開発や発掘が十分ではなかったため、今後力を注いでいかなければならない。
- ・保護者や地域にも授業や行事を公開してきたが、学校の思いを伝えるという一方向の公開だったので、今後は保護者や地域が関わりやすい活動を工夫しなければならない。
- ・道徳教育の指定を受けているときは全教職員の気持ちと同じ方向に向いているが、指定が外れた後も道徳教育に対する熱意を失わないようにすることが非常に重要と考える。それが可能な組織作りが求められる。